✿このパンフレットは、愛媛県「三浦保」愛基金を活用しています。

生きものの恵みと愛媛の暮らし

私たちは毎日、多くの種類の食材を口にし、また、服を着、そして木材を使った家で暮らしています。
この当たり前のような営みは、森林や里地里山、河川、海といった自然がなければ成り立ちません。
そしてこれらの自然は、動物、植物、微生物などのいろいろな生きものの
様々な「個性」と「つながり」によって成り立っています。こうした姿を生物多様性と呼んでいます。

大気と水

私たちが普段何気なく呼吸している酸素は、植物などから光合成により生み出されたもので、森林などに生育する植物が二酸化炭素を吸収し、酸素を放出することによって、人間を含む動物や植物自身の生存が保たれています。また、森林の水源かん養機能や、気温・湿度の調整、水質の浄化などが、多くの生きものを育むという好循環を促しています。

食べものや木材

私たちが、普段口にするお米、野菜、果物、魚、肉、建築物の材料となる木材、衣類の材料となる綿、麻などは農林水産業を通じてもたらされるものです。

例えば、本県を代表する温州ミカンに始まり、生産量日本一のはだかむぎ、キウイフルーツ、マダイ、さらには緩っこ地鶏や愛媛甘とろ豚など、数え切れないほどの食の恵みを受けています。

これらは、数え切れないほど多くの野生種の遺伝資源が健全に維持されていたからこそ、選抜、交配を繰り返す中で、人間にとっておいしくて栄養価の高いものとして生み出すことができました。

生きものの機能や形態の利用

生きものの機能や形態をまねた技術開発への応用、将来の農作物の品種改良など、潜在的・潜在的な利用の可能性があり、私たちの豊かな暮らしにつながる有用な価値を持っています。

自然に守られる暮らし

豊かな森林や河川そして水田は、災害防止の機能を持ち、また、安全な飲み水を供給するなど、私たちの暮らしを守る基盤となっています。

加えて、自然がもたらす美しい景観やレクリエーションの機会は、私たちの心身の健康を保つためになくてはならないものと言えます。

豊かな文化の根源

私たちは、自然を尊重し、自然に接することで、気持ちが開放されて、活力を取り戻すとともに、豊かな感性や美意識を培い、自然と結び付いた様々な文化を生み出してきました。多様な生態系は、地域色豊かな食、工芸、祭りなど地域固有の財産ともいうべき文化の根源となっています。

生物多様性の危機

生物多様性国家戦略2012-2020では、
日本国内の生物多様性の危機として、次の4つの危機について言及しています。
今、地球上の生きものは、人為的な要因により、
これまで経験したことがないような速いスピードで絶滅しています。

【第一の危機】

開発や乱獲などによる影響

人間活動や開発など人が引き起こす負の影響要因による生物多様性への影響のことです。例えば、道路・ダム等の開発や商業的利用・観賞用を目的とした個体の乱獲・盗掘などの人間活動が直接もたらす種の減少や絶滅、生態系の破壊、分断、劣化を通じた生きものの生息・生育空間の縮小、消失が挙げられます。

【第二の危機】

自然に対する人の働きかけの縮小撤退による影響

高齢化や人口の減少などによる耕作放棄地の増加や、ウッドチップ材などを得る場であった里山の荒廃に伴い、その地域の特有の生きものが絶滅の危機に陥っています。一方で、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル等が分布を拡大し、農林業被害や生態系への影響、遭遇事故などの問題も発生しています。

【第三の危機】

外来生物や科学物質による影響

人間が近代的な生活を送るようになったことにより持ち込まれた外来生物や化学物質による影響のことです。外来生物は在来の生きものを捕食する、餌やなわばりを巡って在来種と競争が起こる、近縁の種と交雑することで遺伝子がかく乱されるなど、地域固有の生態系を脅かしています。

また、化学物質の中には、激減の原因となるような動植物に毒性を示すものがあり、生態系に影響を与えるようなおそれがあります。

【第四の危機】

地球温暖化など地球環境の変化による影響

地球環境の変化、特に気温上昇の進行や気候の不安定化は、その地域の生態系に影響を与えます。

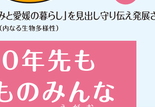
気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第4次評価報告書（2007）によると、地球全体の平均気温が1.5～2.5℃以上上昇すると、約20～30%の動植物種の絶滅リスクが高まる可能性が高いと予測されています。

生物多様性えひめ戦略

生物多様性の恵みを享受し、人と自然が共生し豊かな自然と文化が守り育まれる100年先も人を含めて生きものみんながやさしい笑顔でいられる社会を目指して

えひめの未来のために、私たちにできることがある

愛媛県は、平成23年度に中国四国では初となる「生物多様性えひめ戦略」を策定し、「将来にわたって生物多様性の恵みを享受し、人と自然が共生し、豊かな自然と文化が守り育まれる社会の実現」を目指すべき将来像として、生物多様性保全活動を推進しています。



県民総くるみで「生きものの恵みと愛媛の暮らし」を見出し守り伝え発展させる
（内なる生物多様性）

生物多様性の保全と管理
＋
生物多様性の恵みの持続可能な利用
＋
多様な人々の連携・協働
→
100年先も生きものみんなやさしい愛顔（えがお）

「内なる生物多様性」とは

例えば、昔から人は木や草花、魚など何十、何百種類の生きものを分類し、食べ物や薬、道具などとして利用し、取り過ぎて、多種な生きものからの恵みが絶えることがないよう長年の知恵を言い伝えてきました。このような人々の暮らしに内包されている多様な生きものとのつながりを「内なる生物多様性」と称しています。

参考文献：日雅一雅（2010年）
地球のこども4月号P.21～P.22

✿生物多様性えひめ戦略
http://www.pref.ehime.jp/h15800/1196134_1934.html

守ろう!! 自然公園のマナー

美しい自然　大切な自然　かけがえのない生物多様性を　永く子孫へ、伝えよう

登山は自己責任で

自然公園等の登山道等には、危険な箇所もあります。また、山の天気は変わりやすく、悪天候の場合は危険です。登山に適した服装・装備の準備や事前に情報を確認するなど、自分の身は自分で守りましょう。

ごみは必ず持ち帰る

空缶、ペットボトル、ビニール袋などのごみを捨てると、景観や自然環境を損ないます。食べ残しも、捨てると野生生物に悪影響を与えますので、ごみはすべて持ち帰りましょう。

動植物、岩石、鉱物をとらない

地域や種によっては、法律、条例で、「植物を採る」、「木竹を伐採する」、「石を採る」、「鳥獣を捕る」などの行為は、禁止されています。また、採取を禁止されていない場合も生態系や自然景観の一部ですので、採取等は慎みましょう。

アケボノソウ

トイレは事前にすませる

自然公園等には、十分なトイレ設備がない場所もあります。前もってトイレの位置を確認して、早めにすませておきましょう。トイレ以外の場所で用を足すと、自然環境への悪影響も考えられます。携帯トイレを持参しましょう。

動植物は持ち込まない

地域固有の種や環境を守ることが、生物多様性の保全には大切です。また、狭い登山道では、ずれ違うのも大変です。動物が苦手な方もいるため、ペットの同伴は避けましょう。

登山道、遊歩道を歩く

道をはずれて歩くと、迷ったり、気づかないうちに植物を踏み荒らしたりする恐れがあります。登山道や遊歩道を歩くようにしましょう。大人数で利用する場合は、他の利用者に迷惑をかけないようにしましょう。

愛媛県県民環境部環境局 自然保護課　〒790-8570 愛媛県松山市一番町4丁目4-2 tel：089-912-2365　fax：089-912-2354　e-mail：shizenhogo@pref.ehime.jp

特定希少野生動植物一覧（動物4種）

平成21年3月6日指定（13種）

※特定希少野生動植物については、捕獲、採取、殺傷、損傷の禁止のほか、譲渡に捕獲等し個体の譲渡し等が禁止され、違反者には罰則（1年以下の懲役又は100万円以下の罰金）が科される場合があります。

カスミサンショウウオ（両生類）　動物

成体オス　三浦保

■種の特徴
全長は、約12cm。背面は緑褐色で黒褐色の斑点が散在し、腹面は淡色。幼生は、黄褐色で黒褐色の斑点が散在する。卵嚢は、コイル状又は紡錘形。丘陵地の林床や草地に生息し、早春に水田の溝や用水路等に産卵し、一腹卵数は81～150個。孵化した幼生は、初夏に変態、上陸する。主に昆虫やミミズ等を捕食する。

■分布及び生息状況等
今治市の一部（高縄半島の丘陵地）に生息する。生息地は、水質の悪化等人為的な影響を強く受け、脆弱な環境である。また、愛好家等による過度の捕獲も、存続を脅かす要因となっている。

ナゴヤダルマガエル（両生類）　動物

撮影者　宇和 孝

■種の特徴
体長は、約6cm。四肢が短く、名称のとおりずんぐりした体形で、背面の基色は緑褐色で、比較的はっきりした円形の黒色斑紋がある。繁殖期は5月中旬であるが、繁殖期以外も水辺から離れず、水田や用水路等で生活する。

■分布及び生息状況等
今治市の島しょ部（伯方島、大三島）に生息する。生息地は、水量の増減等人為的な影響を受けやすい環境である。また、水田の耕作放棄による生息地の減少も懸念される。

ハッチョウトンボ（昆虫類）　動物

成虫オス　三浦保

■種の特徴
体長は、18mm前後。日本産トンボ類中最小の種で、オスの体は紅赤色、メスは黄色で胸部に黒い紋がある。サギソウやミミカキグサ等が生える湿地に生息し、成虫は、6～9月にかけて出現するが、移動力は極めて弱い。

■分布及び生息状況
西条市旧之上に生息する。水深がごく浅く、わずかな流れのある湿地を好む。開発による生息地の環境改変が存続を脅かす要因となっている。

コガタノゲンゴロウ（昆虫類）　動物

撮影者　酒井 雅博

■種の特徴
体長は、約25mm。背面は黒色又は黒褐色で緑色光沢があり、前胸背板及び上翅側縁に黄褐色の縁取りがある。前脛及びせ脚は、中ふ節を除き、黄褐色である。湖沼等の止水域に生息し、魚、カエル、オタマジャクシ等の新鮮な死骸を食べる。成虫は走光性が強く、よく灯火に飛来する。

■分布及び生息状況等
松山市、愛南町一本松に生息する。かつては県内各地に生息していたが、農薬汚染、水質汚濁、街灯普及等により激減した。

えひめ生物多様性アクション標語2014

生物多様性を守ることは大切だと思うけど、具体的に何をすればいいか分からない。

生きものは苦手だし、植物にも詳しくなくて…。専門家の人の仕事じゃないのかなあ。

一人では何も変わらないし…。

✿こんなふうに考えていませんか？

もちろん、取り組みを推進していくためには、一人ではできないことや専門的な知識が必要なこともあります。

でも、日常生活の中の、ちょっとした心がけや工夫で、生物多様性を守ることができます。

そこで、ヒントになる行動を提案する標語を「気づこう」「学ぼう」「守ろう」「活かそう」「伝えよう」の5つのテーマで県民の皆さんから募集しました。

（応募総数／609点　募集期間／H25.7.1～H25.9.30）

地域固有の野生動植物が生存できる環境をつくることは、人間が安全に生き暮らせることにつながります。

私たちの日々の行動の積み重ねに、豊かな愛媛の生物多様性の"未来"がかかっています。

気づこう
学ぼう
守ろう
活かそう
伝えよう

✿生物多様性センターってどんなところ？

平成24年4月、愛媛県は、生物多様性の保全に関する調査・研究をはじめ、情報の収集・分析・公表、普及啓発、NPO等の支援などを行う「生物多様性センター」を設置しました。

現在は、大学等教育機関、NPO等民間団体等と連携して特定希少野生動植物に関する研究や重要生態系監視地域モニタリング推進事業（モニタリングサイト1000）里地調査を実施しています。

また、県民の皆さんからの「身近な地域での生き物の変化」、「自然観察会などで見つけた珍しい形の生き物」、「通学路で見つけたお気に入りの生き物」、「地域で生息している自慢の生き物」、「ニホンカワウソ及びニホンジカの目撃・痕跡情報」、「外来生物の目撃情報」などを収集しています。皆さんの「驚き」・「発見」を是非教えてください。

✿愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センター
〒790-0003　松山市三番町8-234
tel.089-931-8757 fax.089-947-1262
http://www.pref.ehime.jp/h25115/biodiversity/

守ろう

未来に残そう みじかな生きもの 豊かな自然

守ろうよ　豊かな緑と青い海
保護活動　進んでしよう　楽しんで！
守ろうよ　共に生きてる　その命

アクション例 ❸

✿地域の自然保護活動に参加する。
✿ペットは最後まで飼う。

これからはじめるアクションのアドバイス

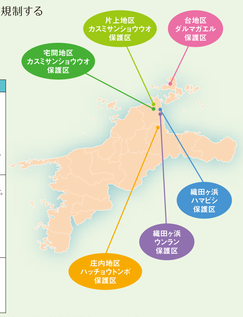
ゴミ拾いやクリーン活動、希少な野生動植物の保護育成といった様々な活動が県内各地で行われています。県では、こういった取り組みが活発になるよう支援を行っています。

その一方で、元々外国の生きものであったり、地域の自然にはいなかったペットや草花を簡単に捨ててしまうことにより、元々地域にいた生きものに大きな影響を与えるといった問題も生じています。

残念ながら既に絶滅してしまったと考えられている生きものはたくさんいます。絶滅した理由を調べてみると、私たちが何を選びどう行動するべきか分かるかもしれません。

ふるさと愛媛の希少な動植物を守り引き継ぐために

県民が一体となって、野生動植物を保護し、生物多様性が保たれた健全で豊かな自然環境を適切に保持していくために、平成20年3月に「愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例」を制定しました。
愛媛県内の、捕獲等を禁止する「特定希少野生動植物」及び開発等の行為を規制する「特定希少野生動植物保護区」を紹介します。



✿ 特定希少野生動植物保護区一覧

平成21年3月6日指定（6箇所）

指定の区域	区域の保護に関する指針
片上地区カスミサンショウウオ保護区 今治市波方町樋口字太平乙206番1地先の区域	同種の生息条件である水量の確保及び水質の保全のため、各種行為が水量、水質など生息環境に著しい影響を及ぼすことのないよう配慮し、適切な管理を行うものとします。 ✿工作物の設置、土地の形質の変更、水面の埋め立てもしないこと。 ✿水路の水位又は水量に著しい増減を生じさせるよう行為は行わないこと。 ✿同種の生息を阻害するおそれのあるシジミビアカミズメ、アメリカザリガニを放たないこと。
宅間地区カスミサンショウウオ保護区 今治市宅間字ヨシノシンゴ227番2地内の区域	
台地区ダルマガエル保護区 今治市大三島町台字30番3地内の区域	
庄内地区ハッチョウトンボ保護区 西条市旦之上2番12地内の区域	同種の生息条件である水量の確保及びこれに関連して水質及び植生の保全のため、各種行為が水量、水質など生息環境に著しい影響を及ぼすことのないよう配慮し、適切な管理を行うものとします。 ✿工作物の設置、土地の形質の変更、水面の埋め立てもしないこと。 ✿木竹の伐採は行わないこと。 ✿同種の結合を阻害するアメリカザリガニを放たないこと。 ✿車馬の乗り入れは行わないこと。 ✿殺虫剤、除草剤を散布しないこと。 ✿火入れ、たき火を行わないこと。
織田ヶ浜ハマビシ保護区 今治市東村一丁目字郡分番30地先の区域	同種の生息条件である砂浜の保全のため、各種行為が地形、地質など生育環境に著しい影響を及ぼすことのないよう配慮し、適切な管理を行うものとします。 ✿工作物の設置、土地の形質の変更、水面の埋め立て及び干拓は行わないこと。 ✿車馬の乗り入れは行わないこと。 ✿火入れ、たき火を行わないこと。
織田ヶ浜ウンラン保護区 今治市東村三丁目字郡分番地先の区域	

※特定希少野生動植物保護区の区域内において、開発等の行為を行う場合は知事の許可が必要であり、違反者には罰則（1年以下の懲役又は100万円以下の罰金）が科される場合があります。

特定希少野生動植物一覧（植物9種）

平成21年3月6日指定（13種）

ハマビシ（高等植物）　植物

成熟オス　大西 晃

■種の特徴
海岸の砂浜に生える1年草又は越年草。茎は、根元で四方に分枝して地をはい、その長さは1m に達する。若い茎や葉軸には白色の粗い毛と短毛が生える。葉は、対生で、夏に小さな黄色い5弁花をつける。果実は、径1cmほどの球形で硬く、10本の鋭い刺と密生する短毛がある。

■分布及び生育状況等
西条市、松山市、伊予市で生育記録があるが、現在は今治市の一部（織田ヶ浜）にのみ生育する。生育地は、海岸改修や車両の乗り入れ等人為的影響を受けやすく、この環境改変が種の存続を脅かす要因となっている。

ミズスギナ（高等植物）　植物

成熟オス　大西 晃

■種の特徴
沿岸に生育する沈水～抽水性の多年草。潮水時には陸生形となる。水中では横走する地下茎から水中茎を伸ばし、基部から枝を分け、全長60cmを超す。葉は、各節に5～12輪生し、糸状線形で長さ1～3cm。水面に達すると、気中に伸びて立ち、葉身は太くなり、長さ0.3～1cm。花期は、8～10月で、葉腋に小さな白い花を単生する。

■分布及び生育状況等
新居浜市、西条市に生育する。生育地は、ため池であり、改修工事や水質の悪化等人為的な影響を受けやすい環境である。

トキワハイカイツツジ（高等植物）　植物

成熟オス　鷲谷 聡一

■種の特徴
渓谷沿いの林内又は林縁に生育する常緑低木である。若い枝は、紫色を帯び、密生した短毛の中に少し長い腺毛をまばらに付ける。花期は、4月下旬から5月上旬まで咲き、淡紅紫色の花冠には上側内面に濃色の斑点がある。蒴果は、楕円形で、腺毛が生えている。

■分布及び生育状況等
宇和島市津島町（基準産地）に生育する。本県の固有種で、生育地は、1ヶ所のみである。園芸的価値が高く、愛好家による採取が種の存続を脅かす要因となっている。

サギソウ（高等植物）　植物

成熟オス　大西 晃

■種の特徴
日当たりの良い湿地に生える多年草。地下にある楕円形の球茎から高さ15～40cmの地上茎を出す。葉は、茎の下部に3～5枚が集まり、広い線形で斜上し、基部はさやとなって茎を抱く。7～8月に、茎の先に1～4個の白色の花を付ける。花は、唇弁が大きく3深裂し、両側の裂片は細が細裂して左右に広がる。花の姿がシラサギが舞う姿に似ており、これが種名の由来となっている。

■分布及び生育状況等
県下全域で生育記録があるが、現在は今治市にのみ生育している。園芸的価値が高く、愛好家による採取が種の存続を脅かす要因となっている。また、他の生育地のサギソウを植栽する事例が確認され、遺伝的かく乱が懸念される。

クマガイソウ（高等植物）　植物

成熟オス　大西 晃

■種の特徴
人工林や竹林等の林床に生える多年草。根茎は横にはい、群生する。茎は、高さ20～40cmになり有毛。葉は、3～4枚で、上部の2枚は扇状に広がり径10～20cmで、放射状に多くの縦しわがある。4～5月に、茎の先に径10cmの袋状になった唇弁を持つ花を付ける。

■分布及び生育状況等
県下全域で7ヶ所以上の生育記録がある。園芸的価値が高く、愛好家による採取が種の存続を脅かす要因となっている。

シコクフクジュソウ（高等植物）　植物

成熟オス　大西 晃

■種の特徴
山地の落葉樹林内に生える高さ10～30cmの多年草。葉は、互生し、3～4回羽状に細かく裂けて、ニンジンの葉に似る。3～4月頃、茎の先に1個から数個の花を付ける。花は、径3～4cmで、黄色の花弁が20～30枚あり、萼片は紫色を帯びる。

■分布及び生育状況等
東予、中予で5ヶ所の生育記録があるが、現在は久万高原町にのみ生育する。園芸的価値が高く、愛好家による採取が種の存続を脅かす要因となっている。

シコクカッコソウ（高等植物）　植物

成熟オス　大西 晃

■種の特徴
標高500m以上の日当たりの良い落葉広葉樹二次林の林床に生育する多年草。葉は、厚く、径5～12cmの広円形で、表面に顕著な縦があり、基部は心形である。5月に高さ10～20cmの花径を伸ばし、先に数個の花をつける。花径は大く、葉柄とともに白く長い開出毛が密生する。花は、紅紫色で径2～3cm、萼片は12～15mmである。関東地方北部に分布するカッコソウの変種で、四国固有種である。

■分布及び生育状況等
四国中央市、今治市、松山市、東温市、内子町等に生育する。園芸的価値が高く、愛好家による採取が種の存続を脅かす要因となっている。

ウンラン（高等植物）　植物

成熟オス　大西 晃

■種の特徴
海岸の砂地に生える多年草。茎は、長さ20～40cmで、分枝し斜上又は横にはう。葉は、対生又は3～4枚輪生し、上部では互生。肉質で緑白色、楕円状披針形で、長さ1.5～5cm、幅0.5～2cm、先はやや尖り、基部は狭まり無柄で全縁。8～10月、茎の上部に短い総状花序を出す。花は、白色だが、下側裂片の中央部は黄色。

■分布及び生育状況等
新居浜市、西条市、松山市、伊予市で生育記録があるが、現在は今治市（織田ヶ浜）にのみ生育する。生育地は、海岸改修や車両の乗り入れ等人為的影響を受けやすく、この環境改変が種の存続を脅かす要因となっている。

チョウジガマズミ（高等植物）　植物

成熟オス　大西 晃

■種の特徴
海岸の岩場に生育する樹高3m程度の落葉低木。樹皮は、灰褐色で、枝先の芽は裸芽である。若い枝には星状毛がある。葉は、広卵形から狭楕円形で、下面には放射状の毛がある。花期は、4月で、集散花序を頂生する。花は、白色で、わずかに淡紅色を帯び、芳香を放つ。

■分布及び生育状況等
八幡浜市、宇和島市に生育する。園芸的価値が高く、愛好家による採取が種の存続を脅かす要因となっている。

保護区における保全活動の様子

保護区では、
地域の皆さん等による清掃活動や観察会の開催など、
希少な生き物を守るための
地道な活動が行われています。

植生調査

保護区前田植え

バーベキュー後に廃棄された灰の除去

立入り禁止ロープの設置

観察会

気づこう

つながって
生きているんだ
虫も木も

気づこう　身近な自然のSOS
気づいてる？　小さな命　こんなにも
人も動物も山も海も　みんな支えあっている

アクション例 ❶

✿家の周りや近所をいつもより時間をかけて散歩する。
✿自然の音に耳を傾ける。

これからはじめるアクションのアドバイス

身近なところでいろいろな草花、虫たちがいて小さな命に出会えます。

大好きな自然に出会えたら、きっと それを守るために行動したいと思うはずで。

イラストにするためによく観察してみると、今まで気が付かなかったたくさんの発見があります。同じ場所でも季節ごと時間ごとに違う発見があるかもしれません。

また、夜、自然の音に耳を傾けると・・・。自然の音の世界があります。こうした自然の音色も生物多様性による恵みの一つです。

活かそう

大切に
無駄なく活かそう
自然の資源

考えよう　あなたの買い物　未来の自然
いただきます　いのち支える　生物の輪
原点回帰　豊かな自然とスローライフ

アクション例 ❹

✿地元でとれたものを食べ、旬のものを味わう。
✿環境に優しい商品を選び、
　地球温暖化の防止に努める。

これからはじめるアクションのアドバイス

地域の産物を旬の季節に味わうことで自然の移り変わりや多様さを感じることができます。

また、捕獲等により生息数を適正に管理することで、生態系のバランスを保つことができます。

商品を選ぶときに、どのような材料が使われているか、どのような方法で作られたものか、一人一人が商品のルーツにまで関心を持つことは、自然と共生する社会を実現する原動力になります。

学ぼう

まず知ろう
自然豊かな
愛媛から

地域の自然　学ぶと広がる　見る世界
学ぼうよ　みじかな場所の　生き物を
いくつになっても忘れない　生き物について学ぶ喜び

アクション例 ❷

✿身近な生きものの名前や生態を調べる。
✿自然観察会に参加する。

これからはじめるアクションのアドバイス

生きものには一つ一つ名前があります。由来を調べてみると意外な一面を知ることもあります。

また、私たち人間と似ているところ、違っているところを見つけて、生きものたちの知恵や宿命を発見したら、正しい関わり方が分かってきます。

県が発行する「愛媛県レッドデータブック」には、県内の絶滅のおそれがある野生動植物を記載しています。

生物多様性センターでは、専門家やNPO等民間団体と連携して、県内各地で「自然観察会」を開催しています。

伝えよう

気づこう
知ろう　伝えよう
身近な生物多様性

伝えよう　自然の豊かさ　大切さ
自然保護の請負人　みんなが主役で広げる輪
子や孫へ、伝えよう貴重な愛媛の生きもの

アクション例 ❺

✿自然について話し合う。
✿生物多様性を守る仲間を応援する。

これからはじめるアクションのアドバイス

お年寄りに自然との遊び方や地域に伝わるお祭り・風習の話を聞いてみると、地域からではの人と人、人と自然、自然と自然の密接な関係性を知ることができます。

そして、まずは興味を持ったことを話題にしてみましょう。紹介しあい、大切に思う心がつながり広がると、自然と人との良好な関係性を受け継いでいくことができます。